

## 旅してみようおもしろい神社仏閣《特別編》 全国一の宮巡礼はじめました その1

愛知県の「おもしろい! (大阪弁) 神社仏閣ずいひつ旅が、びっくり! とうとう10年目<sup>I</sup>となりました。ありがとうございます。ここで特別編というわけで、愛知を飛び出し、全国一の宮の旅に出ることにしました。

というのも、恥ずかしながら年齢40を超えてから、唐突に卵アレルギーになり、卵・卵製品を食べると約3時間後におなかが下るように……。<sup>II</sup> 昨日は食べられていたものが、「食べたくとも食べられない」ようになってしまったのです。そう、人生なんでもやりたいことは「今やらないと突然やれなくなる」可能性があるのです。

《全部は難しい》《大変かも》《お金がかかる》……等々、やらない理由はいくらでも出てきますが、少しでも興味があってやれそうなことは、やれるうちにやってみなければ! と思ひ至り、新しく始めてみたのでした。



真清田神社

### 「全国一の宮巡礼」とは?

つまりは、全国の一の宮神社めぐりです。では一の宮とは? 古社が集まり平成三年に発足した「全国一の宮会<sup>III</sup>」によりますと、

平安時代から鎌倉時代初期にかけて逐次整った一種の社格

で、

朝廷や国司が特に指定したものではなく、諸国において由緒の深い神社、信仰の篤い神社が勢力を有するに至って、おのずから神社の序列が生じ、その最上位にあるもの

を言うそうです。愛知県の一宮市も、尾張国一宮である真清田神社があることに由来<sup>IV</sup> しています。

尾張国のように一の宮が2社ある場所もありますが、それは時代による変遷によるようで、そのため様々な数え方があり、その数も変わります。ですので、私の場合は北海道・沖縄の新一の宮も含め、全国一の宮会加入の102社108か所<sup>V</sup> を目指していくことにしました。まずは、同会の頒布品『全国一の宮御朱印帳』を手に入れるところから旅は始まります。

### 『全国一の宮御朱印帳』を入手せよ!

最初に、上記尾張国一宮へ行きました。そして「無事御朱印帳をGET!」といきたかったのですが、真清田神社では『全国一の宮御朱印帳』は売り切れでした。「購入するなら、こちらへFAXを送ってください、連絡はこちら」と親切に教えていただきましたが、FAXは我が家にはあらず……いろいろ面倒にならず断念。ネットのSNS情報で、「買えました!」とGWごろに投稿のあった賀茂別雷神社を直接訪ねることにしました。場所は京都です。



全国一の宮御朱印帳



賀茂別雷神社 (上賀茂神社)

### 山城国一の宮～賀茂別雷神社～

賀茂別雷神社 (上賀茂神社)<sup>VI</sup> は、天武期にはすでに賀茂神宮として社殿が築かれ、平安遷都後は皇城鎮護の神社として崇敬を受ける山城国一の宮です。

桓武天皇の子、嵯峨天皇の時代、弘仁元年(810年)以降約400年にわたって伊勢神宮の齋宮にならった齋院が置かれ、皇女が齋王として奉仕しま

# ずいひつ



八咫鳥でいっぱいの手水

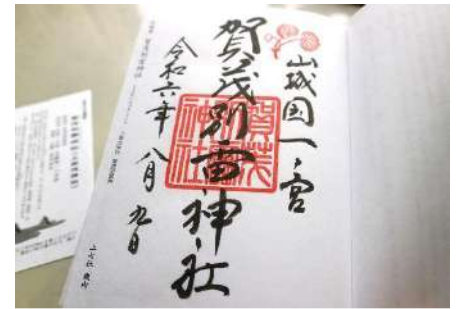
した。江戸時代に再興された賀茂祭(葵祭<sup>あおいまつり</sup>)は、現在も斎王「代」として市民の女性が選ばれ、京都の初夏を優雅な行列で彩ります。源氏物語にも「賀茂祭の車争い<sup>VII</sup>」が出てきますね。賀茂祭が葵祭と呼ばれるのは、祭神が降臨した際に、葵を飾り祭りをせよというご神託があったからとのこと。各所にみられる神紋もまた、その二葉葵の紋となっています。

上賀茂神社の祭神は、賀茂別雷命<sup>かもちわけいかづちのみこと</sup>。山城国風土記逸文<sup>VIII</sup>には、

賀茂氏の祖、賀茂建角身命<sup>かもちたけつのみのみこと</sup>の子、玉依日売<sup>たまよりひめ</sup>が川遊びをしている際に川上から丹塗矢<sup>にぬりや</sup>が流れ着いた。丹塗矢を持ち帰り、寝床に置いていたら懐妊し、男の子が生まれた。これが賀茂別雷命であり、丹塗矢の正体は火雷神<sup>ほのいかづちのかみ</sup>だった。

といった伝説が載っています。賀茂建角身命は、神武天皇の東征の際に、八咫鳥<sup>やたがらす</sup><sup>IX</sup>の化身となって先導した神で、玉依日売と共に賀茂御祖神社(下鴨神社)に祭られています。上賀茂神社にも、八咫鳥のおみくじや置物などがいろいろ置かれていましたよ。

上賀茂神社にて無事『全国一の宮御朱印帳』は購入できました。おまけに一の宮の地図やら色々をいただきました。これをもとに、これから旅していきたいと思います。



全国一の宮巡礼1ページ目! の御朱印

## 目的のある旅は楽し～やりたいことはやっておくが吉



近江国一の宮 建部大社

今回の旅では勢い「近江国一の宮建部大社」「摂津国一の宮住吉大社」「和泉国一の宮大鳥神社」<sup>X</sup>とさらに3社を参ってきたのですが、紙面も尽きてしまったので、ご紹介はまた次の機会にでも。にぎやかに、写真を貼り付けて今回はおしまいです。

皆さんも、自分の「やりたい!」を見つけたら、機を逃さずやってみてみてください

いね。後悔しないように……!

《やりたくても、やれなくなる時が来てしまう》ことはとても多いですよ!



摂津国一の宮 住吉大社

(たぶんもう?名古屋人・M)



和泉国一の宮 大鳥大社  
《先が見通せる》お守り

I ①桃太郎神社 ②羊神社 ③日泰寺 ④伊奴神社 ⑤別小江神社 ⑥城山八幡宮 ⑦三輪神社と、振り返れば神社ばかりですね。お寺も万松寺とか桃巖寺とか強巴林とか、紹介したいところはいっぱいあります。機会があればそのうちに…!

II 卵製品全般がダメになったので、カフェも楽しめません。ドーナツも、ケーキも、カルボナーラも、究極の卵かけご飯も、卵麺のラーメンも卵料理は食べられません……(´ ; ω ;)

III 全国一の宮会 (<http://ichinomiya.gr.jp/>)

IV 「一宮市」の誕生(一宮市公式サイト:

<https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/sougouseisaku/koho/1044318/1044319/1002713.html>)

V 諸国一の宮一覧図(全国一の宮会 <http://ichinomiya.gr.jp/map/0000ichiranz.pdf>)

VI 賀茂別雷神社 (<https://www.kamigamojinja.jp/>)

VII 吉海直人「葵祭と『源氏物語』」(同志社女子大学 教員によるコラム:

[https://www.dwc.doshisha.ac.jp/research/faculty\\_column/2015-05-06-15-42](https://www.dwc.doshisha.ac.jp/research/faculty_column/2015-05-06-15-42))

VIII 「山城国風土記」は鎌倉時代中期の『日本書紀』の注釈書『釈日本紀』に逸文として載っています。

す。伝説については『賀茂注進雑記』釈注と口語訳素案(賀茂県主同族会 歴史勉強会文集「みたらしのうたかた」:  
<http://www.kamoagatanushi.or.jp/Mitarashi/9/4.pdf>) 訳文を参考にしました。

IX 八咫鳥とは3本足の鳥のことで、神武天皇を熊野から大和まで道案内したという「導きの神」として知られます。日本サッカー協会のシンボルマークにもなっていますね。→「八咫鳥について」(熊野本宮大社:<https://www.hongutaisha.jp/%e5%85%ab%e5%92%ab%e7%83%8f/>)

X 建部大社 (<https://takebetaisha.jp/>) 住吉大社 (<https://www.sumiyoshitaisha.net/>) 大鳥大社 (<https://www.ootoritaisha.jp/>)